

私とロータリー

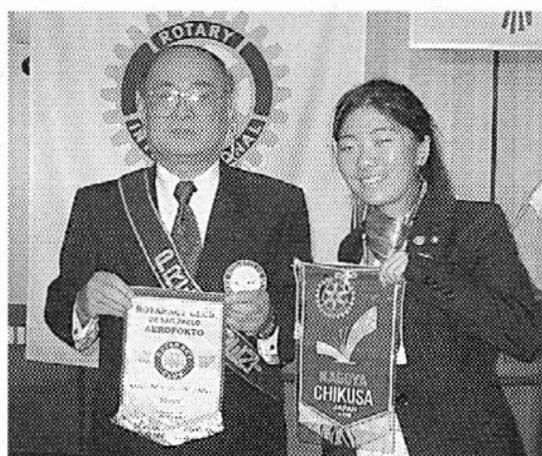
寄稿

ある朝、ブラジルから一通の英文メールが届いていました。サンパウロ空港ロータリークラブ（18〜30歳までの青年男女のための地元ロータリークラブが提唱する奉仕クラブで、通常、地域社会または大学を基盤としている）の会長で日系の女性からでした。

自分のルーツの地であ

名古屋千種ロータリークラブ幹事

池森 由幸



友愛の輪世界中につながり

る日本訪問と、在日中のを訪れるので、我がクラブメンバーにとってはお孫さメンバーも突然の訪問者友達に会うために名古屋の例会に参加したいとんのような小柄な大学生を暖かく迎え入れて親しく会話を誘い

入れる…これが自然に行える信頼感は一

の申し出でし訪問者は、たどたどし00年続いてきた伝統のた。以前、ブラいながらも誠意のこもっなせる技と、改めて認識シルからの交換た日本語でごあいさつをしました。

留学生をクラブされ、メンバーの何人か彼女は帰国後に地元口で受け入れたこらは昔の名古屋の思い出ターリークラブで訪日のともありました話を聞かれて、楽しい時報告をされ、地元クラブので、早速、彼間を過ぎました。からもお礼のメールが届

女に歓迎の旨の彼女は初めて訪れる日き、友愛の輪が世界中にお返事を差し上本の街で、迷わず地元のつながっているのも実感げました。ロータリークラブを訪問しました。

訪問当日、メするという選択をされ、